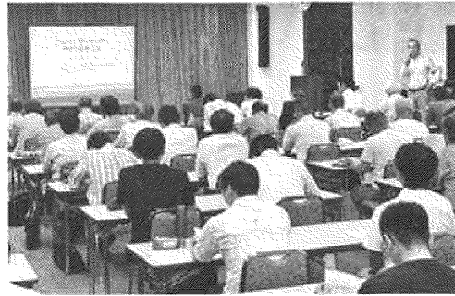


2018年9月28日付
鉄鋼新聞

日本建築学会中国支部

鋼構造セミナーに80人 設計者・ファブらが意見交換

日本建築学会中国支部は22日、広島工業大学広島校舎で第12回鋼構造セミナーを開催。



活発に意見交換を行った

「クレーンガーダーの収まりを考える」との内容で、構造設計者や学生、製作実務者である鉄骨加工業者ら80人が参加した。

高度経済成長期に数多く新築されたクレーンガーダー付き建築物の大きさを使用頻度

いま、次世代の構造設計者が設計を求められている。従来、クレーンガーダーの納まりに関して詳細な説明が掲載された専門書は少ない。さらに、クレーンガーダーはクレーン

物。足元は老朽化に伴う更新や、新事業のためクレーンガーダー付き建築物が増加している。しかし、当時の構造設計者が定年を迎え技術継承がなされていない。このため今回のセミナーでは、構造設計者と鉄骨製作技術者がそれぞれの立場からクレーンガーダーの納まりについての意見を交換。広島県鉄構工業会青年部の島田奏実、島田鉄工所社長、佐藤大ス

最後に、清水保雄日本建築構造技術者協会中国支部長は「収まりについて、どれが正解との結論は出ていないが、本セミナーで紹介された考え方や問題点

が今後の設計の参考に
なるのではと期待す
る」と述べた。